

ひくまの : 浜松医科大学附属図書館報. No. 62

メタデータ	言語: jpn 出版者: 浜松医科大学附属図書館 公開日: 2018-09-12 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 浜松医科大学附属図書館 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10271/00003391

ひくまの

Hamamatsu University School of Medicine
Library Bulletin Mar. 2012

[http:// www.hama-med.ac.jp/toshokan.html](http://www.hama-med.ac.jp/toshokan.html)

目 次

- ・ 図書館の役割におもう
 メディカルフォトンクス研究センター 教授 寺川 進 1
- ・ 過去のコミュニケーションを復元するー歴史語用論の試み
 総合人間科学・英語 准教授 中安美奈子 3
- ・ 電子ジャーナルについて
 冊子体から電子ジャーナルへ移行 5
 電子ジャーナルのバックファイル導入 6
- ・ 新着図書紹介 7
- ・ トピックス
 資料の配置変更 7
 1階案内図 8
- ・ 平成24年度開館カレンダー 8

図書館の役割におもう

メディカルフォトンクス研究センター

光イメージング研究室 教授 寺川 進

図書館は、様々な憧れと想像を抱かせてくれた場所である。小学校の六畳間ほどの狭い図書室が、私の最初の世界への扉であった。担任の先生が、図書室の本を読んだ数を競わせる企画をし、私はいつの間にかクラス1番となり、先生は、「本当に本を借りて読んでいるのか？」と訊いた。私は、「はい」と答えたが、実は、眺めているものが多かった。図鑑や写真集を眺めて、機械、街、外国、天体などにたいへん興味を覚えた。高校生の頃は、学生が下調べをして発表する授業が多く、調べのためによく近くの日比谷図書館に出かけた。そこで調べた菌類のライフサイクルの図は、今でも目に浮かぶ。受験の頃、図書館は

勉強するところであった。その頃、冷房は大きな公立図書館だけにしかなく、それが目当てで、教材と弁当を持って自宅近くの図書館に1日いた。開館の1時間以上も前から、図書館前には高校生の列ができた。開館と同時に50人ほどが入れたが、席が一杯になると、後の人は誰かが出て来るまで待っていた。近くの図書館があまりに混むので、なじみの日比谷図書館にも出かけた。そこも一杯のときは、国会図書館にも入り込んで、冷房の中で勉強をした。そんな高校生でも追い出されることはなかった。国会議員が調べるためにマンガ本まで収蔵していると聞かされたが、確認はしなかった。

大学を卒業し、研究者の道に入ると、図書館の意味は大きく変わった。当然、世界で行われている研究内容を知るための所となった。図書館には、研究者が研究した結果のほとんどすべてが収蔵されている。論文誌を借りては、その重要な部分を書き写し、あとでタイプして自分のものにした。一大学に無い論文は、他の大学から取り寄せられる。日本中の図書館が組織体となって研究結果のすべてを揃えているという事実は、私の図書館に対する見方を変えた。図書館は人類の叡智を文字や画として集積したものである。そのように考えると、図書館ほどすごいものは無い。かってアレキサンドリア図書館というものがあつたそうだが、人類の知を集めるといふ崇高な目的のために建てられた最初の図書館であろう。戦乱焼失は本当に残念である。研究の仕事に就いてから5年後（1977年）に、アメリカのNIHに留学した。その付属図書館（国立医学図書館：NLM）の充実ぶりは、立派であった。コピー機がすでに普及しており、論文をタイプして手元に置く必要はなくなった。ワシントンのLibrary of Congressに古いヨーロッパの雑誌を調べに行ったこともある。その格調の高い建物は収蔵物の価値をいや増すものであつた。

実を言うと、現在は図書館に足を運ばなくなってしまった。それは、オンライン・アクセスのあまりの便利さのためである。日本中どころか、世界中の文献を、自分のPCで読むことができる。これは、図書館がネット上に移行したようなものである。つまり、ひとつの人類共通の図書館が、PC上のバーチャルな組織として存在することになる。ただし、個別の本や論文を読むには、料金を払わなければならないものもある。そのシステムはさておいて、このような歴史の流れについて目を向けてみたい。

よく、人の生きる目的や人類が存続することの意味を考えたいことがある。ひとつの答えは、「この世界を知ること」ではないかと思う。アフリカで発生した人類が、世界を知るために、各地に広がり、また未開の地を探検し、陸から海へと冒険を広げ、次は宇宙に探査を進めようとしている。地球という空間だけでなく、数学や哲学などを含めて「未知の世界への冒険」がすなわち科学である。人類の頭の中の科学的作業は、結局、世界という対象をどのように脳の神経細胞の働きの中にコピー（写像）するかということである。外界の状況を脳にコピーしたものが記憶である。脳の拡大機能として外部記憶を担当するのが書物である。初めは石、粘土、竹に字を書き、それがパピルスや紙のような薄いものに印刷するまでに進化した。ヒトが記憶することのできないような膨大な量を正確に記録することができ、世の中の様子が、脳ではなく紙に写しこまれた。紙の時代の記録の蓄積が図書館である。現代は、紙の代わりに、シリコンや円板の上に記録する。その昔、石に記録していたのと似ているが、細かく書けて複製が容易であるところが違う。もはや紙の本を集めた図書館は、時代遅れのものになろうとしている。

将来人類は、世界の構造や宇宙の歴史を、脳を通して、最小単位である原子の配列に記録することになるだろう。人類が積み上げた科学技術の全知識、そして、美術の全蓄積も、すべてが原子レベルの文字を用いて、記録・再生できるようになる。図書館の形は変わるが、人類の持つすべての記憶が、ネット上の

図書館に集まるであろう。個々の人間は、アリが巣に小さなエサを運びこむように、このネット上の巨大な巣に知識と作品を運びこむ役目をする。このような新しい図書館を作ることが、宇宙が人間に託した究極の目標なのではないか。私には、宇宙が、その巨大な時間と空間の形と仕組みを、詳細に原子の配列に写し込み、それらを集めた図書館を作らせることを目指しているのではないかと思える。難しい言葉になるが、ヒトの存在は、自然には作れない新しい原子の秩序を作り出し、宇宙におけるエントロピーの増大を補償する意味がある。図書館の役割は、情報論的にも熱力学的にもエントロピーを下げることである。易しく言えば、原子文字で綴った本を揃え、この世の秩序を極めることである。

過去のコミュニケーションを復元するー歴史語用論の試み

総合人間科学・英語 准教授 中 安 美奈子

歴女ではないけれども、「大河」は私にとって定番のひとつだ。テレビドラマには似つかわしくないスケールの大きさに目を奪われ、ストーリーの緻密さに引き込まれる。それにしても、登場人物の話す言葉について注意が向いてしまうのは、言語学者の性に違いない。実際には、平清盛はどのような言葉で部下に命令を下していたのだろうか。江と秀忠の間では、どのような会話が交わされたのだろうか（まさか「あの～」 「でも…」ではあるまい）。

日本語の歴史ならずとも、言語の歴史はトピックに事欠かない。シェイクスピアの時代、愛を告白するには（いってみればナンパである）、どんな言葉の方略を使って相手を説得していたのだろうか。Goodbyeはいつごろから「さよなら」という挨拶の機能を持つようになったのか。近年に目を向ければ、ケータイが使われるようになってから、我々のコミュニケーションはどのように変化したのだろうか。このような問いに答えようとする試みが、「歴史語用論」である。

語用論とは、言語の使われ方を研究する言語学の一分野である。言語形式同士の関係（つまり、言語形式の組み立て方）を分析するのが統語論の役目であり、言語形式とそれが指しているものとの関係（つまり、言語形式がもともと持っている文字通りの意味）を分析するのが意味論の役目だとすれば、語用論は、言語形式と話し手との関係（つまり、話し手がある場でその言語形式に込める意味）を扱う。例えば、「ちょっと寒いね」と言えば、その文脈によるが、「ドアを閉めてください」「ヒーターをつけてください」などという意味を込めている。話し手の社会的な役割、話し手と聞き手の関係、言語的な文脈、社会的背景など、極めて多くの要因がかかわる領域である。とすれば、われらが歴史語用論の目的は、当然のことながら、歴史的な言語データの語用論的側面を分析することにある。過去のある時代において語用論的な事象はどうだったのかを記述したり、ある語用論的な事象が時代の流れの中でどのように変化してきたのかを分析したりする。先ほど述べた例をあげれば、シェイクスピア劇において異性を口説くのにどのようなポライトネス・ストラテジー（相手の立場に配慮した言語方略）が使われているのか分析するのは前者の例、“God be with ye [you]”が変化して別れの挨拶である“goodbye”が派生した歴史を辿るのが後者の例である。

さて、ここで大きな問題が起こる。歴史的なデータには、ネイティブ・スピーカーがもういないのは当然のことながら、話された言葉の音声データがないのである。そもそも語用論は、話し手の意味を研究するのが役割であるから、話された言葉の研究によって発展してきた。言語形式を扱う統語論ならばさほど問題にならないデータの問題も、語用論ならば大きな問題になり得る。では、歴史語用論を研究するにあたって、話された言葉を直接観察することができないのならば、書かれた言葉を正当なものとして見なすことはできるのだろうか。

実は、話し言葉の書かれた記録である、裁判記録、文学作品（特に劇）、場合によっては手紙などは、いわゆる論文のような書き言葉よりはるかに忠実に話し言葉を反映していると考えてよい。このような「話し言葉性」「書き言葉性」といったものは、より話し言葉性が高い、低いといったような程度の問題であり、もはや話された言葉と書かれた言葉との間にその性質の厳密な区別は存在しない。現代においても、チャットやツイートされた言葉は書かれた言葉でありながら、話された言葉にはるかに近い。一方演説は、話された言葉でありながら、書き言葉性が高いといえる。それでも、書かれた言葉から話された言葉を導き出すには、注意が必要だ。書かれた話し言葉には、音声がないこと以外に、自然に起こるフィラー（例えば「え〜っと」）が少ない、言い間違いがない、編集者が手を加えた可能性がある、といった特徴がある。こういった問題を解決するには、これからの研究の進展を待たねばならない。

話はそれるが、データがなくて困ってるんだったら、時間を超えて過去の世界へ旅しちゃったらどうなの、なんて声がSFファンから聞こえて来そうだ。果たして、現代人と過去の人々との間に、コミュニケーションは成り立つのか。そんな夢のような話が、最近見たドラマ『仁-JIN-』で描かれていた。現代の脳外科医である南方 仁が、江戸時代にタイム・スリップしてしまうというストーリーである。統語論的には、江戸後期の人々との話し言葉によるコミュニケーションは、さほど難しいものではなかったろう。ただ、「20センチかく?」「これが、ガ、ガーゼなるものに」という咲の台詞からわかるように、登場人物を取り巻く社会的背景（医学の知識を含めて）があまりに異なるために、語用論的な問題が起こることは容易に想像できる。こんなふうにはありえないことを思い描いてみるのも楽しい。

インターネットの発達により、いまや言語はこれまでにないスピードで変化している。未来の言語学者たちは、その時までには豊富に蓄積された文字や音声のデータを用いて、我々の使っている言葉をどのように分析するのだろうか。

さて、歴史語用論に興味をお持ちいただけましたか。ぴったりの入門書がありますので、ぜひご一読をおすすめします。

『歴史語用論入門—過去のコミュニケーションを復元する』

（高田博行，椎名美智，小野寺典子編著 シリーズ・言語学フロンティア3，大修館書店）

附属図書館所蔵 1階一般図書【資料ID：00010110125／請求記号：801 Ⅱ 11】

電子ジャーナルについて

■冊子体から電子ジャーナルへ移行しました。

世界でもっとも権威ある週刊総合医学雑誌の一つである「New England Journal of Medicine」、医学・生化学・分子生物学等、ライフサイエンス分野における世界最高峰の学術雑誌の一つである「Cell」が冊子体から電子ジャーナルで利用できるようになりました。



電子ジャーナルへ移行しましたタイトルは以下のとおりです。

- American journal of physiology
- American journal of respiratory and critical care medicine
- Blood : journal of hematology
- Brain : a journal of neurology
- Cardiovascular research
- Cell
- Cerebral cortex
- Endocrine reviews
- Endocrinology
- European heart journal : journal of the European Society of Cardiology
- Frontline gastroenterology
- Genes & development
- Genome research
- Gut
- Human molecular genetics
- JAMA : the journal of the American Medical Association
- Journal of experimental medicine
- Journal of immunology
- Journal of virology
- Microbiology and molecular biology reviews : MMBR
- Molecular and cellular biology
- Molecular endocrinology
- New England journal of medicine
- Pharmacological reviews
- Physiological reviews
- Proceedings of the National Academy of Sciences of the United States of America
- Radiology
- The American journal of clinical nutrition
- The American journal of psychiatry
- The FASEB journal : official publication of the Federation of American Societies for Experimental Biology
- The Journal of clinical endocrinology & metabolism
- The Journal of clinical investigation
- The Journal of neuroscience : the official journal of the Society for Neuroscience
- The Journal of the American Society of Nephrology

電子ジャーナルのバックファイルを導入しました。

図書館ホームページ左下の電子ジャーナルからご利用ください。



学内LANに接続された端末よりご利用いただけます。実際にご利用いただけるタイトルは、図書館ホームページの浜松医科大学電子ジャーナルタイトルリストからご確認ください。（バックファイルの意味は雑誌のバックナンバーのことです。）

- ▶ New England Journal of Medicine (1812年創刊号から現在まで)
- ▶ Nature (1950年から現在まで)
- ▶ Cell (1974年創刊号から現在まで)
- ▶ The Lancet (1823年創刊号から現在まで)

電子ジャーナルタイトルリスト表示例

・ジャーナルタイトルの下にリンクあり
 ・利用したい出版年を確認してその年が含まれている方のリンクをクリック

Cell
[ScienceDirect - Cell Press](#) 1995 から現在まで
[ScienceDirect Backfile - Cell Press](#) 1974 - 1994
 Resource Type: Journal
 ISSN: 0092-8674 オンライン ISSN: 1097-4172
 出版社: Cell Press
 件名: Sciences -- Biology and Life Sciences -- Cytology

その他のバックファイルを導入しました出版社、分野およびタイトルの一部は以下のとおりです。

- ▶ Elsevier社 SciVerse ScienceDirectのサブジェクトバックファイルコレクション
 生化学・遺伝学・分子生物学・神経科学・医学分野のジャーナル約450タイトル
- ▶ Lippincott Williams & Wilkins社から出版されている医学・看護学・薬学分野のジャーナル
 約100タイトル (LWW Journal Definitive Archive Subset Fixed 100)
- ▶ JAMA (The Journal of the American Medical Association) 米国医師会から刊行されているジャーナル
 10タイトル
- ▶ Wiley-Blackwell社から出版されている医学分野47タイトル
- ▶ American Institute of Physics (アメリカ物理学会) から刊行されているジャーナル
 11タイトル (AIPデジタルアーカイブ)

新着図書紹介

蔵書更新計画により、続々と新着図書が入っております。
一部をご紹介します。

新着図書リストは
本学蔵書検索OPACの「カテゴリ検索」から
ご覧いただけます。
図書館エントランスの掲示にもご注目ください。



- ・ 認知心理学：知性のメカニズムの探究／太田信夫ほか著/培風館／2011年
- ・ 医学・薬学・健康の統計学：理論の実用に向けて／吉村功ほか著／サイエンティスト社／2009年
- ・ 分子生物学超図解ノート 改訂版／田村隆明著／羊土社／2011年
- ・ 強くなる英語のディスカッション／崎村耕二著/日興企画／2004年
- ・ ドイツ語おもしろ翻訳教室／太田達也著／日本放送出版協会／2007年
- ・ フィッツパトリック皮膚科学アトラス／Fitzpatrick, Thomas B. 著／丸善／2008年
- ・ 全身疾患と眼／村田敏規編／中山書店／2011年
- ・ Basic immunology 3rd ed.／Abul K. Abbas著／Saunders/Elsevier／2011年
- ・ 事例に学ぶ法医学・医事法 第3版／吉田謙一著／有斐閣／2010年
- ・ より理解を深める！体液電解質異常と輸液 第3版／柴垣有吾著／中外医学社／2007年
- ・ 人体解剖学実習：要点と指針／大谷修編集／南江堂／2011年
- ・ 根拠と写真で学ぶ看護技術 1・2・3／小林小百合ほか編著／中央法規出版／2011年
- ・ 新看護観察のキーポイントシリーズ／小野寺綾子ほか編／中央法規出版／2011年

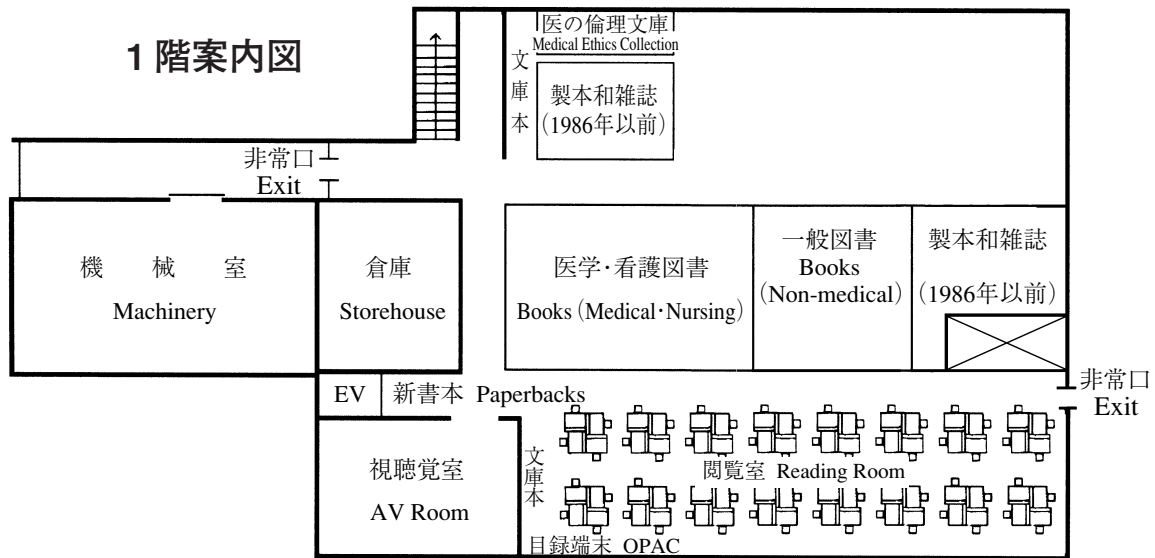
トピックス

電動集密書架の撤去による資料の配置変更

平成23年度末に大幅な蔵書見直しと1階の電動集密書架の撤去工事を行いました。これにより、図書・製本雑誌の場所が変わりました。(次ページの1階案内図参照)

1階医学図書の書架は基礎医学QSからQZ、別置されていたWYの看護系図書もこのコーナーに並び、医学・看護WからWZまで連続して配架されました。続いて、総記000から文学900までの一般図書が配架されました。従前の一般図書の書架には1986年以前の製本和雑誌が配架されました。撤去後のスペースは利用者の利便性を考慮しプランを検討中です。

2階製本洋雑誌コーナーには所蔵するすべての洋雑誌が配架されました。多くのタイトルが電子ジャーナルのバックファイル導入で便利に利用できるようになりましたので、ご活用ください。



平成24年度浜松医科大学附属図書館開館予定日

■ は閉館日 土・日曜日 10:00-17:00

4月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30					

5月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

6月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

7月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

8月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

9月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30						

10月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

11月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	

12月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

1月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

2月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28		

3月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						